

先端医療レポート

GooDr.

グッドクター
選ばれる歯科

失った歯で悩む方へ

「よく噛めない」「痛い」など、失った歯の悩みや入れ歯に悩む人は多い。入れ歯とインプラントの治療の現状と課題、補綴歯科治療全般、そして補綴の歯科医の選び方について、日本補綴歯科学会の古谷野潔現理事長と田中久敏・元理事長に聞く。

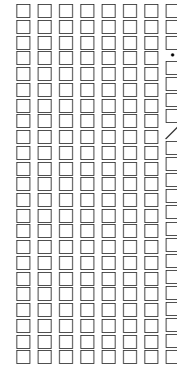


日本補綴歯科学会理事長

古屋野 潔

日本補綴歯科学会元理事長・歯学博士

田中久敏



対談

よく噛める美しい入れ歯とインプラントの新事情

○ 歯科医療の現状

歯科医療の現状について、どうぞご覧になっておられますか。

古谷野 最近の傾向としては、若い人の虫歯が減って来ました。歯周病についても治療が進んでいます。しかし一方で、高齢者を中心に、歯を失って困っている方が増えているのも事実です。また、単に噛めればよいというだけでなく、見た目も美しくということでも、より審美性と機能性に優れた治療が望まれるようになって来ています。

田中 歯周病の治療やう蝕の抑制など、40〜50代までの歯科治療は成功していると思います。しかし、いったん治療が終わった後のメンテナンスがよくできていない方の年齢の方の中には、口の中がいたましい状態の方も多くいます。噛み合わせが崩壊してしまうと、義歯をつくるにしても大変難しくなります。そういった難症例が増えてきているように思います。入れ歯で悩んで

いる方も大変多いです。

「補綴歯科治療」というのは、一般的になじみが薄いのではないのでしょうか。

古谷野 歯の欠損部分を人工物で補って、噛む、発音する、飲み込むなどの機能を回復して、社会生活が支障なく送れるようにするのが補綴歯科治療です。欠損の状態に応じて、かぶせ物やさし歯、両側の歯を削ってかぶせ物をするブリッジ、部分入れ歯、総義歯など様々な方法があります。インプラントもチタン性の人工歯根を埋めて上に歯をつくる治療ですから、補綴の一種です。

○ 入れ歯治療とインプラント治療

田中 補綴治療というのは、ただ単に歯の代用物をそこうめ込めばいいということではなく、咀嚼（そしゃく）機能とそれが全身に及ぼす影響について熟知した上で、治療を行う必要があります。入れ歯が合わないから、インプラントにして

（特集企画⑥へ続く）

■グッドクター 選ばれる歯科

（特集企画①から）
固定してしまえば万事うまくいくかというところというわけでもない。もちろん、インプラントがすばらしい効果を発揮する場合もあります。しかし、機能回復の一手段であって万能ではありません。入れ歯でも、補綴の高度な知識と技能をもった歯科医師がうまく作れば、安い費用で患者さんを十分に満足させることができます。

—— 審美性の点で、インプラントのほうがよいのではと考える方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

古谷野 確かに、笑ったときに部分入れ歯のバネが見えるのがいやだとか、入れ歯のピンク色の部分を床と言いますが、この床がじゃまだと言われる方はいます。しかし、こういった入れ歯はひと昔前のもので、新しいタイプの入れ歯では金属が見えたり、不自然に見えるものは少なく、審美的にも優れております。また、田中先生がおっしゃるような、補綴は歯だけの問題ではないのです。歯を失うと

いうことは、その周囲の歯茎や骨までも失う可能性が高くなります。そういった時に、失われた歯茎や骨を補綴しているのが入れ歯の床です。床がないと口元に張りが出ません。これをリップサポート機能と言いますが、高齢でインプラントにしたものの歯茎がやせて口元のシワがとれない場合など、インプラントの上に入れ歯を入れるといったケースもあります。

田中 歯牙の喪失によって顔面に付着している支持組織がなくなると、顔貌が大きく変わります。優れた補綴・入れ歯治療もふくめ、の歯科医とは、口の機能を回復させるだけのものではなく、審美的な側面も問われています。ですから、そうした面をも考慮して入れ歯がつくれる歯科医でなければならぬと思います。インプラント治療をするにしても、きちんとした補綴の知識があることが望ましいと思います。



○ よい歯科医の見分け方

—— では、歯を失って困っている患者さんがよい歯科医を見分けるにはどうしたらよいのでしょうか。

田中 日本補綴歯科学会では、かぶせ物、さし歯、ブリッジ、入れ歯に対する知識の豊富な歯科医を育成しようとする専門医制度を設けていますので、一つの目安にはなるでしょう。入れ歯は臨床経験が多く、歯科技巧に優れた施設、とりわけ専門的にやられている先生がよいでしょう。

古谷野 同じ歯科医でも、補綴を専門とする歯科医もいれば、口腔外科が専門で手術が得意とか、歯周病治療におもに研究してきたとか、海外のインプラントの先進的な治療を学んできた歯科医など、バックグラウンドは様々です。そこをよく見極めることも大事です。

田中 今は、どの歯科医もインプラントを一つの選択

○ 健康寿命の伸長に貢献

田中 もう一つ、ぜひ触れておきたいのが、高齢者の健康と歯科医療です。認知症の方を調査すると、きちんと入れ歯を使っておられない方が多いと言われます。歯がないことは行動抑制に通じ、それがやがては認知症を引き起こすのではないかと推測されます。全身の健康のためにも、歯のメンテナンスを十分に心がけていただきたいと思っています。

古谷野 入れ歯をきちんと使って生活していると、転倒しにくくなるというデータもあります。現在、医療の目標は、自立して活動ができる健康寿命を延ばすことだと言われています。日本補綴歯科学会では、ここ数年、「入れ歯がつくる健康長寿」というテーマで活動してきました。入れ歯治療がいくつになっても健康で人生を楽しむために貢献できることは間違いありません。よい歯科医を選んで、健やかな毎日をお過ごしいただきたいと思っています。